

一九九九年は

「露骨な、右旋回の一年」！

…では、二〇〇〇年は？

◆市民にとって、今年はどんな年だったのでしょうか？

・上級学校に進み、前途洋々の学生から、経済不況をもらにかぶった方や、意外に乗り切れた方など：それぞれの感想があるでしょう。

◆日本の社会全体では、どんな年だったのでしょうか。

・国民を守るはずの防衛庁の汚職や、警察自身の犯罪をはじめ、社会の歪みそのものの殺人事件や、似非（えせ）宗教のはびこりなど：それこそ、世紀末を感じさせるような状況でした。

◆では、日本の政治を考えるとどうでしょうか？

・音楽都市・浜松の自衛隊基地が整備拡大され、一機五七〇億円もする「AWACS（空とぶ司令塔）」が、私達の反対も及ばず、計四機も配備されました。

・その上に、さらに「空中給油機」までもが配備される可能性も出てきました（現在、基地対策協議会は「慎重・反対」の姿勢ですが：）。

・もし、そうになると、浜松基地は、完全な「実戦基地」となり、沖縄にある基地と同じような役割を果たすことになるでしょう。

◆そして、これらの補強として、「日米・新・ガイドライン（戦争協力法案）」や「国旗・国歌」法案が可決され、憲法調査会も設置されるようです。

◆これはまさに、現・平和憲法をなし崩しにし、自衛隊合憲はおろか、軍事力を整えるために、憲法の改正をし、再び侵略を目指すような、国家体制に戻っていくようにしか思えません。

◆このように、今年は、露骨に、日本が「右旋回」した一年でしたが、来年は、どうなるのでしょうか？

◆現・平和憲法は、黙っていては守られない時代になってきました。来年こそ、今年に増して、改めて力を結集し、平和の道へと歩み直すしかありません！

一九九九年十二月十二日（日）第三九四回・憲法を守る平和行進

浜松市憲法を守る会

事務局 浜松市紺屋町三〇一、十五